

当院消化器内科における新型コロナウイルス（COVID-19）対策について

コロナウイルスの感染経路は飛沫感染、接触感染が基本であり、2019 新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）も主な感染経路は同様であるとされています。消化器内視鏡診療にあたっては、特に経口・経鼻での上部内視鏡検査（胃カメラ）では患者の咳嗽を誘発する場合もあり、エアロゾルによる医療従事者への感染も危惧されます。

内視鏡検査室など密閉された空間で、高濃度の汚染されたエアロゾルに一定程度の時間曝露した場合には、エアロゾルによるウイルスの伝播が高頻度で起こりうると考えられます。また、糞便からのウイルス排出の可能性も指摘されており、下部消化管内視鏡検査における潜在的な感染リスクもあるとされています。（日本消化器内視鏡学会 HP より）

当院スタッフにおける新型コロナウイルス感染による 4 月、5 月の診療体制縮小の際は、ご心配・ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

これまでにも注意を払い診療にあたっておりましたが、今回の当院での感染を踏まえ、更なる検討・改善を加え、現在では以下の対策をおこなっております。

内視鏡検査室における対策

① 検査前の問診

内視鏡検査を予約いただいた患者様には、検査当日に検温に加え、呼吸器症状などの問診によるチェックをさせていただきます。

検査前の問診等で新型コロナウイルス感染を疑う際には、緊急性がない検査は延期させていただく方針としていますので、ご了承ください。

② 内視鏡検査室の対策と環境調整

I .患者様の検査待ち時間の対策

・ 予約枠の調整(1 日の内視鏡検査数、検査時間帯の分配)をおこない、待合室の混雑を避けるように配慮しています。

・ 待合室の椅子の配置は一定の間隔を設け、向かい合わないよう配置しています。



内視鏡待合室

II.検査室の対策

- ・当院の内視鏡検査室は計4室あり、うち2室を検査に使用しています。使用する検査室は間隔を設け、未使用の検査室は換気のために窓を開放しています。
- ・内視鏡スコープや器具の洗浄に加え、検査後は検査ベッドを中心にアルコールシートでの消毒を徹底しています。
- ・検査時間の間隔を設け、検査後は毎回窓を開けて10分以上の換気をおこなっています。



内視鏡検査室
検査室2と検査室4を使用しています。



内視鏡検査室内
窓を開放し、十分な換気をおこなっています。

③ 内視鏡検査室スタッフの対策

- ・検査時には、サージカルマスク、フェイスシールド、手袋、キャップ、長袖ガウンを着用しています。手袋、長袖ガウンは、患者様ごとに交換しています。



消化器内科外来における対策

待合室の混雑を避けるため、別棟に診察室を設けました。



外来診察室

広く、十分に換気ができる窓もあります。



廊下

内視鏡室と外来の導線を分けております。

これからも安心して外来診察、検査ができるように努めてまいります。

感染拡大防止のために、皆様のご理解とご協力どうぞよろしくお願い致します。

菊名記念病院 消化器内科・内視鏡室スタッフ一同